

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

確率と統計からユーザーの気持ちと商品の価値を知る 樋口 知之 (統計数理研究所所長)

1. 確率と統計を学ぶに当たり、意識しておくべきポイントがあります。それは、確率と統計は似ているようで違う学問だということです。確率は前提条件などの原因があつて結果がどうなるかと推論する「順問題」を扱います。一方、統計は結果がまずあつて原因が何かを探る「逆問題」を扱う学問だということです。そして、統計を記述するときに使う道具が確率なのです。意識的に、物事の結果から逆に原因を推論していく。この逆問題の思考法が、統計を使いこなすための重要なポイントです。
2. ビッグデータの登場で、数学のビジネスへの応用の在り方が変わりました。統計の原則は、データ数が増えると結果が安定するということ。ただ、従来はデータ数が少な過ぎて活用できない場面も多かった。ところが、データが豊富に入手できるようになり、これまで解けなかった問題が、数学の手法でチャレンジできるようになったのです。
3. ユーザーの気持ちや所有品の価値といった数字で見えなかったものが、膨大なデータと計算力から推量できるようになってきました。重要なことは背後にあるからくりを勉強することです。人工知能やディープランニングも、背後にあるのは全て統計です。からくりの仕組みが分かれば、要素技術をこう組み合わせているな、ということや、グレイクスルーが起きたポイントも見えてきます。データを起点にしてアイデアを考えることができないビジネスマンが必要とされない時代は、すぐそこまで追ってきていると感じます。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2016年7月2日号)

経営者のための危機管理

3年連続赤字からの脱却

淡輪 敏 (三井化学社長)

1. 3年連続赤字という非常に厳しい状況からどうすれば復活できるのか。考えぬいた末に、「三井化学の誇りを取り戻そう」というメッセージを前面に打ち出すことにした。特に研究者は予算を削られ、萎縮していた。化学メーカーとして社会的責任を果たしていないという思いも強かった。仕事のやり方、企業風土を積極的に変えていかないと生き残れない。全社員でそんな危機感を共有できたのが大きい。
2. 完全回復を遂げるには、新規事業をきちんと利益を生む構造にしないといけない。そのために、ベンチャー企業に乗り込んで材料を提案し、一緒になって価値を作り出す。自動車・電機といった大口顧客からの注文を受けるだけでは成長はない。ツキを呼び込むことも重要だ。ツキはポーと待っているだけではやってこない。明るさ、活力が生まれて初めて手に入れられる。

(参考:「日経ビジネス」:2016年7月18日号)

経営者のための理念・哲学

自ら源を知る

平澤 興 (元京都大学総長)

1. 「おん一恩」という言葉を辞書でひくと、「めぐみ」「いつくしみ」とか、「目上の人から受けたありがたい行為」「目上の人がかかる情け」などと説明してあるが、しかし表意文字としての漢字の「恩」には、本来もっと深い意味がある。恩の字は、上の「因」と下の「心」からできているが、因とはもと原因とかいうことで、恩とはものごとのもと、ことに自らの今日の姿のもとを知って、これを心にいただき、ありがたく思うことである。
2. せいっぱいの努力をしたら、結果についてクヨクヨ考えない。これがわたしの座右の銘です。心の安定上もう一つ大切なのは生きる喜びとそれへの感謝でしょう。自分の力で生きているなどと、おこがましいことを考えません。毎朝、目をさましたとき生きていることの不思議さを感じ、それを喜ぶのです。

(参考:「致知」2016年9月号)

古典に学ぶ

義理は奇怪な誤称

(解説) 私の考えでは、義理は正しい道理として出発しながら、しばしば快疑論にまで身を落としたのである。義理は非難を恐れる臆病にまでも墮落さえした。正しい道理より以上に、またはより以下にまで運ばれて、義理は奇怪な誤称となった。義理はその両翼の下に、あらゆる種類の詭弁と偽善をかくまった。かりにも武士道に鋭く正しい勇気の間、すなわち敢為忍耐の精神がなかったとすれば、義理はたやすく臆病者の巢になり果てたことでしょう。(参考:佐藤全弘訳新渡戸稲造「武士道」:教文館)